

延べ宿泊者数は前年同月比プラス 住宅着工は 8カ月連続で前年同月比マイナス

10月の延べ宿泊者数は、前年同月比+9.2%の813,110人で、2カ月連続で前年比プラスとなった。うち外国人は、前年同月比+40.8%の190,440人だった。

11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲36.9%の1,004戸となり8カ月連続で前年比マイナスとなった。

各指数の矢印については
現状の景況感をあらわす。



上向き



横ばい



下向き

鉱工業生産指数



3カ月連続で前月比低下(10月)

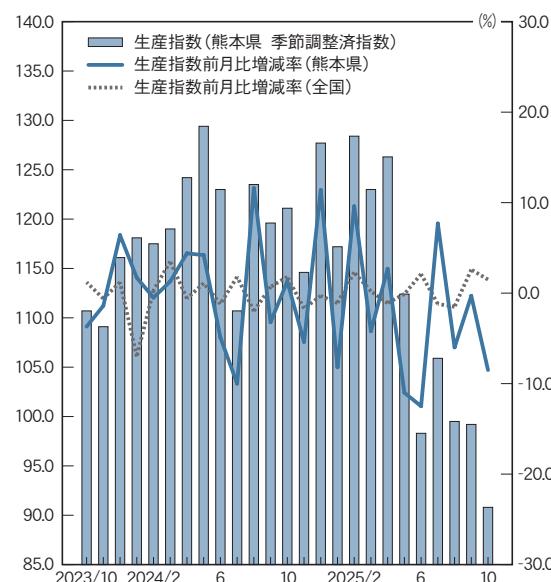
10月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、速報値で前月比▲8.5%の90.8となり、3カ月連続で前月から低下した。

生産指数（季節調整済）を業種別にみると、汎用・生産用機械工業（前月比▲31.3%）、化学工業（同▲17.8%）、金属製品工業（同▲5.9%）など7業種が低下した。一方、電気機械工業（同+22.0%）、食料品・たばこ工業（同+4.2%）など10業種が上昇した。

業種別寄与度を見ると、汎用・生産用機械工業が▲12.54ポイント、化学工業が▲1.99ポイントとなり、全体の生産指数を押し下げた。

出荷指数（季節調整済）は前月比▲8.6%の93.2となり、2カ月ぶりの低下。在庫指数（同）は同+4.5%の83.1で2カ月連続の上昇だった。

鉱工業生産指数前月比 (2020年=100 季節調整済)



※最新月は速報値

資料：熊本県統計調査課、経済産業省

住宅着工

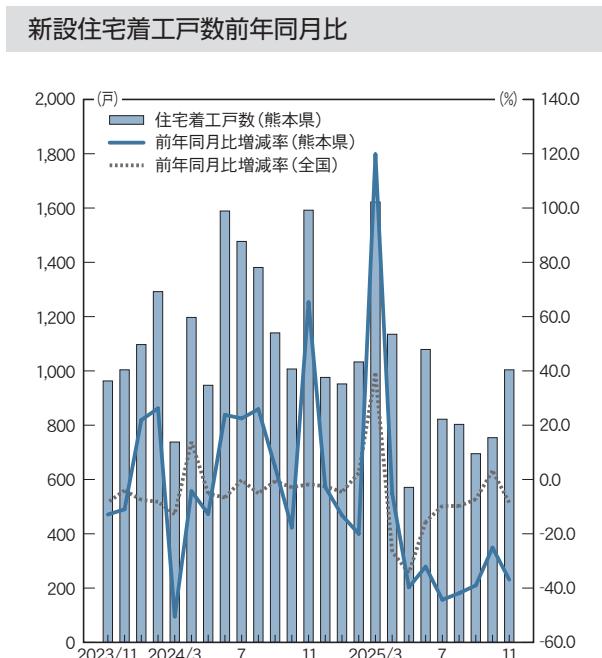
着工戸数は8カ月連続で前年比マイナス(11月)

11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲36.9%の1,004戸となった。

利用関係別にみると、持家が358戸（前年同月比▲10.9%）、貸家は488戸（同▲51.8%）、分譲は156戸（同▲6.0%）であった。

この背景には、省エネ基準の適合義務化や、一定の条件を満たす場合に建築確認申請を省略できる4号特例の縮小による駆け込み需要で急増した3月からの反動減が続いていると見られる。さらに、建築資材価格の高止まり、建設業界の深刻な人手不足、金利上昇など様々な要因が重なり、着工戸数の減少につながっている。

全国の11月の新設住宅着工戸数は、59,524戸（同▲8.5%）と前年比マイナスとなった。利用関係別では、持家、貸家、分譲の全てで前年比マイナスとなった。



資料：国交省

公共工事

→ 請負金額は前年比マイナス(12月)

12月の公共工事請負金額は135億3百万円で前年同月比▲25.5%となつた。

以降は会員専用ページにて公開しております。
請負金額を発注者別にみると、国は17億64
百万円で、前年同月比増減率(熊本県)は+12.2%、前年同月比増減率(全国)は+11.9%です。
ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
アクセスをお願いします。

44億36百万円（同▲7.5%）となっている。
地区別では県内11地区のうち、鹿児島市、玉名地区の2地区が前年比プラスとなり、高
北地区、球磨地区などの9地区がマイナスとなりました。
なった。

会員の方はこちらから